

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人日本語サポートあさ

1 事業の趣旨・目的

熊本県八代地域の総人口に占める外国人登録者数の割合は熊本県においては熊本市を抜き、一位であるが日本語支援は団体、個人の指導者共に極端に少ないのが現状である。それぞれの日常の中で異なった環境やニーズに合わせて日本語支援が行われる体制づくりが急務である。生活者としての外国人の日本語を支えるために、地域の隣人による日本語支援を実践する人材育成として指導者養成を目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月28日	熊本市国際 交流会館 応接室	八木浩光 小川ひろみ 尾上敏子 内山和子	委員紹介 講座内容及び講師 実施計画について 参加者募集、広報の方法	・講座の趣旨、日程の確認 ・講師及び講義内容の確認 ・参加対象者について検討 ・広報ちらしの内容と配布方法
7月30日	やつしろ ハーモニー ホール	西尾珪子 小川ひろみ 八木浩光 尾上敏子 内山和子	委員紹介 講座の目標確認 今後の運営についての意見 交換 アンケート集計	・講座の第一回を終え、当日の 運営の反省会 ・回収したアンケート集計と振り 返し、今後のアンケート実施に ついて内容及び時期決定
12月17日	やつしろ ハーモニー ホール	関口明子 (12月17日) 小川ひろみ 尾上敏子 鬼塚幸子 猪本展大	講座振り返り アンケート集計 この研修の成果 今後への展開と可能性 報告書作成について	・この講座の振り返りとして、講座 の評価、成果についてアンケ ート結果や運営スタッフの感想 を交えて意見交換。 ・今後の展開や課題について、 情報提供や今後につなげるた めの連携が必要 ・12月17日の続きとして1月7日 に同じ内容でスタッフのみ集合
1月7日	くまもと県民 交流館 パレア			

【写真】

第2回運営委員会 7月30日
西尾・八木・内山・尾上・小川

第3回運営委員会 12月17日 関口・小川・尾上・猪本 鬼塚
1月17日 鬼塚 小川 尾上 猪本



3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 「日本語指導者養成講座 in 八代」
- (2) 目標 日本語支援に必要な基礎的知識と技術の基礎を体得し今後この地域日本語支援に積極的に関わろうとするときの人や情報のネットワークの基礎づくりを目標とする。
- (3) 受講者の総数 55 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本人55人 *ただし、日本人配偶者で日本国籍を取得した中国語母語話者3人を含む。)
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 (8 回)
- (5) 参加対象者の要件 八代及びその周辺に在住で現在または将来、地域の日本語支援に積極的に関わる意志のある人で且つ開催される全ての講座に参加可能な人を優先して受け入れたが、一部熊本市内在住者も受け入れた。
- (6) 受講者の募集方法
 - ① 掲載告知(熊本日日新聞) 広報やつしろ
 - ② ちらし配布(八代市役所・氷川町役場 氷川町教育委員会 やつしろハーモニーホール 八代市教育会館 尾上歯科医院 名和小児クリニック 八代市立図書館 100部 熊本市国際交流会館・くまもと県民交流館パレア ボランティアセンター やつしろクラブのロコミで知人に手渡し *ちらし添付あり
- (7) 会場 やつしろハーモニーホール (八代市新町5番20号 Tel:0965-53-0033)
- (8) 使用した教材・リソース

講師名	主教材	補助教材・資料
西尾珪子	講師準備の書き下ろしプリント教材 「日本在住外国人への日本語教育の現状」 —地域日本語支援の推進とボランティア活動	パワーポイントで内容要約表示

坂本正	講師準備の書き下ろしプリント教材 第二言語習得研究と日本語教育	パワーポイントでプリントの内容表示 教師準備の資料： 中間言語仮説からインターアクション仮説まで 第二言語学習に影響する要因、最近の研究成果
八木浩光	講師準備の書き下ろしプリント教材 熊本の地域日本語支援の現状・ 熊本の取り組み	パワーポイントで資料表示 2010年報 ANNUAL REPORT(財団法人熊本市 国際交流振興事業団発行)
小山悟	講師準備の書き下ろしプリント教材 「わかる」から「できる」教え方	パワーポイントで内容表示 「みんなの日本語」18課 ワークショップ資料「街づくり絵教材」
内山和代	講師準備の書き下ろしプリント教材 「やつしろクラブ」活動紹介 八代地区における外国人状況	活動紹介のイベントちらし
小川ひろみ	講師準備の書き下ろしプリント教材 多様な日本語教育現場 日本語教材紹介	・パワーポイントで内容表示 ・平成22年文化審議会文化科発行「生活者 としての外国人」に対する日本語教育のカリキ ュラム案について」114頁から118頁「日本語指 導者資料」配布
尾上敏子	講師準備の書き下ろしプリント教材 教え方の実際 実習	パワーポイントで内容表示
関口明子	講師準備の書き下ろしプリント教材 外国にルーツをもつ子供たちの未来へ責任	外国にルーツをもつ子供たちへ「将来へ続く道」 かんじだすきシリーズ(展示)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月30日 10:00～ 16:00	「日本在住外国人への日本語教育 の現状」 地域日本語支援の推進とボランティア活動 ① 日本全国各地に在住する外国人の諸相 ② 国内の日本語教育半世紀の歩み ③ 日本語支援ボランティア誕生から今日まで ④ 地域日本語支援ボランティア活動の基本姿勢 ⑤ 日本語支援ボランティアに求められる能力 ⑥ 地域の特性に関する知識	公益社団法人 国際日本語普及協会 会長 西尾珪子	36
8月18日 10:00～ 16:00	第二言語習得研究と日本語教育 ① 第二言語習得研究の目的、背景 ② 中間言語 ③ 第二言語学習に影響する要因、 ④ 学習者の動機づけを高めるために有効な10か条	南山大学 教授 坂本正	33

<p>9月17日 10:00～ 16:00</p>	<p>熊本の地域日本語支援の現状/ 熊本市の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 熊本で日本語を学ぶ人の分類 ② 熊本県の在住外国人の推移と現状 ③ 在熊外国人の諸状況 ④ 日本語教育の必要性和日本語教室設置に向けた課題 ⑤ 多文化共生の意味 	<p>財団法人 熊本市国際交流振興事業団 事務局長 八木浩光</p>	<p>32</p>
<p>10月1日 10:00～ 16:00</p>	<p>日本語の教え方 「わかる」から「できる」教え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域日本語教室の問題点 ② 改善すべきは何か ③ 日本語学とは何か ④ 日本語教育は何を教えるのか ⑤ 文法や語彙の知識は何の役にたつのか ⑥ 日本語の習得を促す教室とは ⑦ 日本語教室の実情にあった日本語授業とは 	<p>九州大学留学生センター 准教授 小山悟</p>	<p>33</p>
<p>11月19日 10:00～ 12:30 13:30～ 16:00</p>	<p>地域日本語教育支援の現状と問題点 八代地区の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域日本語支援やつしろクラブの活動 ② 八代市区の外国人の諸相 ③ 日本語教室の問題点 支援者からと外国人側から考える <p>振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各講師の内容を「日本語ボランティアに求められるもの」のテーマでまとめて発表 ② 地域日本語教室と日本語学校の違い ③ グループ討議 「日本語の何が難しいか」 「生活のための日本語とは」 	<p>地域日本語支援 やつしろクラブ 代表 内山和代</p> <p>NPO 法人 日本語サポートあさ 代表 小川ひろみ</p>	<p>21</p>
<p>11月26日 10:00～ 16:00</p>	<p>日本語の教え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多様な現場、多様な教え方 ② 日本語ができる Can-do OPI ③ 日本語のできる 教室活動(参加型) ④ 「やさしい日本語」の話し方 ⑤ 教材紹介 主にWEBサイトの活用 	<p>NPO 法人 日本語サポートあさ 代表 小川ひろみ</p>	<p>26</p>

12月10日 10:00～ 12:30	教え方の実際・技能実習生の現場から 技能実習生に必要な日本語とは ① 八代市郡の技能実習生の概要 ② 実習生に必要な日本語とは ③ 見て、聞いて、正しく理解して行動するために	NPO 法人 日本語サポートあさ 技能実習生担当講師 尾上敏子	22
13:30～ 16:00	④ やってみよう／グループで授業を組み立て 体験模擬授業	NPO 法人 日本語サポートあさ 代表 小川ひろみ	
12月17日 10:00～ 16:00	外国にルーツをもつ子供たちの未来への背金 ～日本語支援の現場から～ ① 事例紹介(上飯田、新宿、横浜) ② 子供の言語発達と日本語支援 ③ 具体的指導方法 ④ 生活言語、学習言語 ⑤ 周囲の大人、地域の連携と責任	公益社団法人 国際日本語普及協会 地域日本語教育担当理事 関口明子	23

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート： 3回実施・回収は各回9割以上 アンケートと集計結果添付)

実施月日	目的	主な項目	主な評価と感想
7月30日	初回につき、参加者の傾向を探る	・参加者の諸相(年齢・職業・性別・居住地等) ・時間・期間・回数・内容	午後の時間が長いと感じていた →午前午後 2.5 時間ずつに以後変更 午後のワークショップの評価が高かった。 内容はよかった、知識が増えた、期待どおりとほとんどの参加者が回答した
8月18日	参加者傾向を探る この回の内容が学術的で難しかった(第二言語習得)ので反応を知るため	・日本語教育の研修や指導経験の有無 ・講座の時間・内容	・8割が日本語指導経験なしで有りの場合も個人レッスンやボランティアでの指導 ・内容は難しかったがわかりやすく、意義深いと全員が回答。時間が長く感じられワークショップ形式を希望している
12月17日	最終回につき、今後の予測と講座振り返りの資料として	・参加状況と評価 ・今後の参加と条件 ・今後に期待すること	・8割が全講座皆勤した。 ・自分たちの地域(八代)で開催したことがよかった。 ・今後の参加は参加費用でなく内容で決定する。今後期待する内容は現場での具体的指導法。 ・著名講師の講義が聞いて良かった ・終日でなく、半日を長期で希望

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・研修内容は全国から地方の現場へ、理論から具体的指導へと構成したかったが、講師の日程調整もあり難解なテーマが先にきてしまい参加者に難しいと思わせてしまったが、大半は有意義でよい勉強だったと肯定的に受け入れてもらえてよかった。
- ・時間が長いと感じる参加者が複数いたが、参加者の希望どおり短時間を長期開催は今回は経費の面から不可能であり、そのためか特に午後の時間のワークショップや模擬授業、実習は歓迎された。
- ・この地区での指導者研修は初めてのことであり、日本語教育研修も指導経験もない参加がほとんどだったので、全員日本語教育の専門知識が不足していることを実感している。そのため、講義内容はどれも肯定的に受け入れられたが、特に実際の授業にすぐに役立つ教え方や教材の扱い方に関心が高かった。
- ・参加者が当初の予測であった20人をはるかに超えたことは、今回のような専門知識や実際の教え方などの研修会が地元で開催されることがこれまでなかったため、この研修会が参加者全員に歓迎され、地域日本語指導者の輪を広げることに役立った。
- ・この研修は全ての参加者からよい評価を得て、次回開催を強く希望され喜ばしい結果となった。

(7) 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・この地域の日本語支援団体の活動が活性化され、支援者各人がそれぞれ自信とやりがいをもって活動に参加できるよう、情報を提供していきたい。
- ・今回の参加者は全員この研修の継続を望んでいる。この地域で継続的に研修会が開催されるようその方法について、参加者と具体的に検討していきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回、公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)、財団法人熊本市国際交流事業団から講師が参加協力している。また、この地域の行政職員や技能実習生の受け入れ団体も受講生として参加している。今後はAJALTからの情報、熊本県や市、地域の行政と連携でこの地域の日本語支援が活性化することを期待したい。

② 研修後の人材活用

今回の参加者は日本語支援未経験者が多く、この研修会で初めて日本語教育という言葉を書いた参加者もいる。この研修で日本語支援に興味をもち、日本語支援のすそ野が広がることを期待している。

(12) 今後の課題

- ・講座中、八代の課題として「日本語支援やつしろクラブ」から報告があったが、「支援者からは日本語学習希望者がどこにいるのかわからない、受け入れ家庭や団体が困り込んで他と接触させない傾向がある場合、どうしたらいいかわからない」という声が上がっている。
外国人は多いのに日本語支援の受け皿がなく日本語支援者の活躍の場がないことが問題。
- ・講座継続が参加者から望まれているが、短時間を長期に開催するためには講師や経費等の運営が課題となるだろう。

[写真]

7月30日 西尾珪子 (地域日本語教育支援とは)



8月18日 坂本正(第二言語習得)



**10月1日 小山悟
「わかる」から「できる」**



12月17日 修了証書授与



**12月17日 関口明子
外国にルーツを持つ子供たちの
未来への責任**